ビジネススクール生活②

第 1 期 OB　井上 貴晴

慶應ビジネススクール（以下，KBS）での充実した生活も残り数か月となり，今年の 4 月からは社会に復帰します。

KBS の 2 年間では，知的な刺激に満ち溢れた非常に充実した時間を過ごすことができました。

1 年次は，基礎科目を中心に，ひたすらケースとの格闘。戦略，会計，財務，マーケティング，組織，生産…扱ったケースは 300 を超えるでしょうか。経営管理に必要となる要素をひととおり学べたと自負しています。無論，学んだことを使いこなせるかどうかは自分次第ですが…

著者が通う慶應ビジネススクール

2 年次は，専門科目を取りつつ，ゼミに所属をして修士論文を作成しました。ゼミは田中滋教授という，ヘルスケアポリシーに精通されている先生に師事しました。師は，政策学者として日本の介護保険の創設に関わり，現在は「地域包括ケアシステム」の実現に向けて，尽力されている方です。また，ヘルスケア業界では「田中ファミリー」という言葉があるほど，ゼミの OB がこの分野でご活躍されており，強固なネットワークが構築されているのが特徴です。

師からは，数えきれないほど多くのことを学びました。そのうちのいくつかを挙げると，「社会保障は，“社会主義”の発想からではなく，むしろ“資本主義”を守るという発想から生まれた。セーフティネットがなければ，貧困に苦しむ層ができ，暴動などが生じることによって社会が不安定になる。それを防ぎ，健全な資本主義社会を構築するために，社会保障は必要不可欠」，「政策は，誰にとっても 60 点というのが望ましい。誰かにとっての 100 点の政策は，誰かにとっては 0 点」，「医療と介護は，皆が拠出している保険や税金によって運営されている。それゆえ，価格を中央で統制し，社会保障費用の膨張を抑える必要がある。逆にいえば，価格を統制されている病院や介護施設の経営は，一定の利益しか生み出せないような仕組みになっている。この領域で高い利益率を実現したいのであれば，病院や介護施設を運営するよりも，両者を顧客とする事業を展開する方が理に適っている」，「医療や介護は政策に問題があるのではなく，そのマネジメントに問題がある」などです。ヘルスケア領域を初めて学ぶ私にとって，この領域で長年に

渡ってご活躍をされてきた師からのメッセージはどれも金言でした。

また，この 2 年間はひたすら飲んだ二年間でもありました。KBS はありとあらゆる機会を利用して飲むのが文化（？）でして，グループワークやゼミ，飲みを通して，一生付き合っていくであろう仲間を，数多く得たのが最大の収穫でした。この歳になって，利害関係の全くない仲間ができるのは大きな財産だと思っています。おかげで，湯水のごとく散財し，ずいぶんとぽっちゃりしましたが。

さて，今後についてですが，伯父が創業した同族企業に就職することになります。キャリアについては色々と悩みましたが，最終的には，2 期代表の T 君の言葉に背中を押されて決めました。伯父の会社はリジョイスカンパニーという，大学病院を主な顧客として，アウトソーシング業務（清掃・警備・施設管理・医療事務・滅菌・看護助手等）を展開している会社です。業界では，まだまだ小さい会社ですが，自分達の代で基盤をつくり，世の中に何らかの影響力を発揮していけるだけの会社に成長させていく所存です。私自身のミッションとしては，管理系を統括していくことになろうかと思います。勤務先は浜松町ですので，お立ち寄りの際にはお声掛けください。

続いてもう 1 つの話題を。2010 年 10 月に誕生した息子が 2 歳 3 か月を迎えました。最近では，言葉を流暢に操るようになり，かわいくて仕方がない状況です。私が出かける際に，玄関まで見送りにきて，「パパ！ 今日は仕事（注：我が家では学業を仕事と言い聞かせている）？ 飲み会？」と，毎度のように聞かれるのは心苦しい限りですが。

2 歳の誕生日でケーキを目の前に嬉しそうな御息子